

「昔のくらしと道具」 西春別小学校3、4年生の 来館がありました。

12月から2月にかけて、町内小学校3年生の団体来館が多くなります。社会科で「昔のくらしと道具」という授業に入るからです。実際に昔の道具を見るには、当館が最適で、資料も豊富に展示されています。また、炭火アイロン・洗濯板・湯たんぽ・灯油ランプ・せんべい焼きなど、実際に道具使う体験も行っています。12月17日（木）には西春別小学校3、4年生7名の来館があり、お話、見学、道具の体験をとおして昔のくらしを学びました。

（写真上：せんべい焼き体験、写真下：アイロン体験）



今年度の調査から その2 「藤野家について」

【近代・藤野家概史】

明治2年（1869）場所請負制度が廃止され、漁場持ち制度に変わりました。

藤野家は、北見国の紋別・常呂・網走・斜里の4郡、根室国の標津・目梨の2郡、千島国国後郡の漁場持ちとなりました。漁場の新規開拓をはじめ永住民を移住させ漁場を分け与え漁業に従事させるなど開拓に尽力しました。

明治5年（1872）根室に白木屋（呉服・太物・和洋反物及び雑貨販売）を開き、その後、網走、紋別、釧路に分店



旧開拓使別海缶詰所（後の藤野缶詰所）の一部
別海漁業協同組合倉庫 別海町歴史文化遺産

を設けました。明治22年(1889)には、函館を拠点とした海運業、倉庫業、明治26年(1893)以降、網走・旭川・鷹栖・美瑛・白糠などに牧場をつくり、牛馬を飼育した牧畜業など多角経営を行いました。

その他、新道の開削や橋梁の整備を私費で行い、学校建設や災害時に寄付を行うなど社会奉仕活動にも尽力しました。

明治18年(1885)に喜兵衛の名を廃止、国内営業の一切を四郎兵衛に統一し、大阪に本店を置き、道内各地の営業所を支店または、出張所としました。

北海道の漁業は次第に利益が減少し、経営規模を少しずつ縮小しました。明治42年(1909)にはカムチャッカ方面に出漁しましたが、大正5年(1907)本支店を廃止、全事業の休止を決定しました。

一方、「北新家」と称される分家の藤野辰次郎は、明治20年(1887)北海道より別海缶詰所の払い下げを受け、藤野缶詰所として営業をはじめました。その後、標津、国後、択捉に工場を設けました。日清、日露戦争で軍の買入、海外への輸出も多かったようです。標津では牧場を設け、漁の閑散期に牛肉の缶詰生産を行いました。

昭和8年(1933)には、朝鮮半島を含め缶詰工場が9カ所、製材所が1カ所、牧場が1カ所となっていました。敗戦後はすべての工場を失い事業から手を引くことになりました。



藤野缶詰所製造さけ缶詰ラベル 別海町郷土資料館所蔵



藤野缶詰所 缶詰収納箱 別海町郷土資料館所蔵



株式会社藤野缶詰所 提灯 別海町郷土資料館所蔵

別海町郷土資料館だより No.258

発行日 令和3年1月6日

発行所 別海町郷土資料館

別海町別海宮舞町30番地

電話 0153-75-0802 (FAX 兼)

e-mail kyoudo@betsukai.jp

編集後記

2021年の幕開けとなりました。コロナウィルスの終息も不透明で、大変な世の中になっています。1年前は、当然こんな状況ではなく、早く日常に戻りたいと誰もが願う新年だったことと思います。当館も大きな影響を受けていますが、こんな中で出来る限り館の使命を全うしたいと思います。(K.I)